

事業の背景・目的

【背景】

能勢町は、豊かな森林資源を有するが、管理不足により機能不十分な森林が増加していることが課題となっている。吹田市と能勢町の取組みに令和2年10月に豊中市が加わり、里山の更なる魅力を発信を目指している。

【取組みの現状】

平成30年度 生物多様性保全推進支援事業の採択を受け、「能勢の里山活力創造戦略」を策定。
令和元年度 街と里の交流事業として街と里の子ども達が交流を行う「里山DAY CAMP」の実施や、企業によるクリ林の再生を目指す「クリ林再生プロジェクト」の実施、「能勢の里山活力創造戦略」の普及啓発フォーラムを実施した。

事業の内容

・「能勢の生きものマップ」策定事業の実施

街と里の交流を進める中で、都市部企業による生物多様性資源の回復状況を図る指標として「能勢の生きものマップ」を策定した。「能勢の生きものマップ」作成に当たっては、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、街と里の交流は実施できなかったが、地域住民に生物多様性資源に対して関心を持ってもらう取組みとするために、地域の小学校の児童館活動と協力し、「生きもの調査隊」としてクリ林、水辺、三草山において生きもの調査を子ども達と一緒にいった。

また、3月には「能勢の生物多様性展」を生涯学習センターにおいて、実施し地域住民からの生きもの情報の募集や、生物多様性保全のために出来ることを宣言してもらうなど、地域住民が生物多様性資源に関心を持つ取組みとなるよう工夫した。



生きもの探し風景

得られた成果

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、街と里の交流事業が実施出来なかった。しかし、令和2年10月には吹田市に隣接する豊中市が本協議会に加入するなど、新たな展開が可能な体制が構築出来た。

「能勢の生きものマップ」を策定したことにより、能勢町に生息する生きものの生息状況などの整理を行った。

今後、策定した「能勢の生きものマップ」を活用し、これまで行ってきた街と里の交流事業に加え、SDGsの達成に向けたCSR活動や社会貢献活動に取組む企業等と連携し、クリ林の再生や生物多様性資源保全に取り組むもの。また、令和3年3月には、能勢町生涯学習センターにおいて、「能勢の生物多様性展」を開催し、地域住民への生物多様性資源への関心を高めた。



能勢の生きものマップ